

「どこまで高校で指導していますか？」①

北海道上川高等学校

若 林 理一郎

1 疑問に思ったこと

大学進学を希望する生徒を指導しながら疑問に思っていたことなのですが、他の高校では講習などの「課外指導」は、どのようにどれくらい行われているのかに非常に興味を持ちました。そこで、今まで実践してきたことや聞いたことなどについて述べることで、何か参考になる情報収集ができればと思って書いたのがこの稿です。

2 聞いた話から・・・

今、ここでは「課外指導」を放課後、土・日、長期休業中等の講習、プリント等による添削指導を想定します。

「課外指導」は、教育課程上の指導（いわゆる「授業」）だけでは受験に対応しきれないので、それ以外の時間に行われるのが実情でしょう。これに関して、今まで聞いた話として次のようなことがあります。

まず、数年前にあった管内での教務担当者会議でのことです。いわゆる地方の進学校の先生だったような気がします。放課後に講習を行うことになったという話でした。ただ、部活動との兼ね合いから、あまり十分な時間を確保できないということを述べていたような気がします。そこで、他校はどのような状況かという投げかけがあったのですが、本来の話の主題がその学校の研究指定に関するものであったため、この件に関する意見があったという記憶はありません。

最近、このことを思い出して、本校の進路指導の担当に「課外指導」に関することが進路関係の会議で話題になっているか尋ねてみたのですが、そのような情報等が集約されていることはないようです。

また、6、7年前にいわゆる大規模の進学校における進路指導の視察に行ったことがあります。ちょうど夏休みに行われていた1年生の講習の見学と講習全体に関する説明でがありました。少し記憶が曖昧ですが、確か90分×2コマで数学と英語が行われ、数学では数学Ⅰ・Aのセンター試験対策演習を見学しました。午前中に5日間（10日間だったかもしれない）集中的に行っていたと思います。地域性から学校に対する依存が高い（札幌のように大規模な予備校がないため）だけでなく、その当時から学力が低下しているということから行うようになったという説明でした。

3 この3年間における「課外指導」の取り組み

私自身、学生時代の5年間、看護系の予備校で国語の講師をしていました。そして、受験指導のプレッシャーを強く感じながら、生徒を合格させるための指導について試行錯誤するなかで多くの知識と経験を得ました。

本校に着任してから、その経験を生かして進学指導に役立てて、何とか小さな高校からでも国公立大学に進学できるということを示して、地域に貢献するとともに地域住民に本校の教育活動

により深い理解と協力を得ようと以前から考えていました。

何とかチャンスをつかんで今の生徒たちを受け持つようになって、その計画を本格的に実行しようと思い、今までの学年ではやってこなかったことも取り入れながら、特に大学進学希望者に対する「課外指導」を積極的に行ってきました。

「平成18年度入学生」における「進学講習」の概要

<1年生>

(1) 平常講習

月・水・金に国・数・英の3科目の講習(時間帯:15:40~16:30)を実施。

(2) 夏期・冬期講習

国・数・英を実施。時間数や日程等は各担当教員による。数学は10時間程度実施。

<2年生>

(1) 平常講習

月・水・金に国・数・英の3科目の講習(時間帯:15:40~16:30)を実施。
数学については、生徒によって更に演習を実施。

(2) 夜間講習

部活動終了後に数・英の2科目の講習(時間帯:18:30~20:30)を実施。
町内の進学希望者を対象。

(3) 夏期・冬期講習

国・数・英を実施。時間数、日程等は各担当教員による。数学は10時間程度実施。

<2年生>

(1) 平常講習

月~金に5教科7科目の講習(時間帯:15:40~16:30)を実施。
数学については、生徒によって更に演習を実施。

(2) 夜間講習

部活動終了後に数・英の2科目の講習(時間帯:18:30~20:30)を実施。
町内の進学希望者を対象。

(3) 夏期・冬期講習

5教科7科目の実施。時間数、日程等は各担当教員による。数学は10時間程度実施。

このほかにも、足りない分はプリントによる添削指導も行いました。

そして、生徒一人一人がどの程度実力を身につけたかを確認するために各種模試を積極的に受験させました。その中で、遅くまで残った結果が模試の成果に出て、更に「課外指導」に意欲的に取り組むようになった生徒も複数出ました。

4 授業以外での進学指導

本校は、平成13年度から高大連携を行っており、現在は3大学4校協定を締結しています。

その中でも、北海道教育大学旭川校では、生徒の興味・関心や進路希望に合わせて、理科(物理)・英語・数学の3科目の高大連携講座を開講していただきました。2年生の冬休みと3年生の夏休みに実施し、大学生の講義に高校生が参加したり、本校生だけのために特別講義を行ってくださったりといろいろな形式で行われた。このうち数学では、代数学の奥山哲郎教授による特別講義を受講しました。内容は高校生向けにわかりやすく楽しみながら学べるもので、参加した生徒も非常に興味・関心を持って帰りの車中でもその話題が尽きないくらいでした。

その他にも、室蘭工業大学のオープンキャンパス参加、生徒が受験予定の大学(4校)・専門学校等(10校)への訪問を行い、情報収集と本校生徒の売り込みを行ってきました。そのとき

の経験が保護者も含めた生徒への進路指導に大きく役立つとともに、各種業界の現状についても認識することができました。

5 最後に

後段の件は、ほとんど数学とは関係のないことなのですが、これらのことも含めて都市部や進学校ではどのような進学指導がされているのか、それと比較して今までの自身の実践を評価・反省する意味で書いてみました。

様々な観点からご批評いただければ幸いです。

なお、本校の情報等について、ホームページでご覧いただけますので、お時間のあるときにアクセスしてみてください。

○上川高校のホームページ <http://www.kamikawa.hokkaido-c.ed.jp/>